

平成30年度第3回山元町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年12月25日(火) 午後1時30分から午後2時55分
- 2 開催場所 山元町勤労青少年ホーム 1階 講義室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 概要 以下のとおり
 - (1) 開催
 - (2) 開会の挨拶
 - (3) 議題
 - ①小・中学校再編方針に係る住民説明会の結果等について
資料1に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - ②小・中学校再編方針(案)について
資料2に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - ③学校再編に係る今後のスケジュール等について
資料3に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - (4) その他
 - (5) 閉会

1 開催にあたり【司会:佐藤学務課長】

ただいまから、平成30年度 第3回山元町総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして、山元町長 齋藤 俊夫よりあいさつを申し上げます。
齋藤委員については、欠席の連絡を受けております。

2 あいさつ【山元町長:齋藤俊夫】

平成最後の年の瀬になにかとお忙しい中、ご出席頂きまして誠にありがとうございます。

本日は、小・中学校再編問題に特化した会議となりますが、これまでを振り返ってみますと、10月に開催した第2回教育総合会議におきまして、小・中学校再編の方針案については、検討委員会での検討結果を尊重するかたちで、小学校1学校区、中学校1学校区とすることで意見交換を行ったところでございます。

その後、今月初めに教育委員会で再度、住民説明会等を開催しておりますので、本日はその結果を踏まえまして、皆様方に本町の次世代を担う子どもたちの学習環境等の整備に向け、意見交換を行いたいと考えておりますので、忌憚の無いご意見を承りたいと思います。

1 2月議会定例会の中でも、この再編問題については、3人の方々から一般質問というかたちで頂戴したところでございます。

再編方針が決まるということになれば、今後の町全体のまちづくりにも大きく関わる重要案件でございますので、今日は、町執行部から、私だけでなく、総務課長と企画財政課長にも同席させて頂き、参考にさせていただきたいと思っております。

それから、この後の教育委員会定例会でもご紹介があると思いますが、今回の議会の中では、エアコン設置の予算措置の関係もありましたが、若干時間を取られる場面もありましたので、後ほど定例会の中でも確認していただければと思います。

よろしくお願ひしたいと思ひまして挨拶に代えさせていただきます。

－以下議事－

3 議 題

【司会】

ありがとうございました。

ただ今、町長からもご紹介いただきましたが、本日の議題の学校再編につきましては、今後のまちづくりにも関連がありますので、町執行部より、菅野総務課長並びに大内企画財政課長の同席を頂いておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、次第に基づきまして、議題に入らせていただきますが、議題の進行につきましては、山元町総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、齋藤町長が議長となり、進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

【議長】（齋藤町長）

はい、それでは、「小・中学校再編方針に係る住民説明会の結果等について」事務局から説明をお願いします。

【説明】（佐藤学務課長）

はい、それでは、12月2日に開催しました、小・中学校再編方針に係る住民説明会の結果等についてご説明いたします。

お配りしている資料1-1住民説明会の結果についてをご覧頂きたいと思ひます。

今回の説明会は、10月に検討委員会からの検討結果報告を受け、教育委員会として、検討委員会の再編の方向性を尊重した、方針案の説明として、2会場で説明会を開催しております。

今回の説明会では、小・中学校の再編方針案と併せ、現状の小・中学校での課題を踏まえながら、学校教育の充実についても説明を行っております。

参加者数につきましては、ご覧のように述べ40人と8月に開催しました説明会の約3分の1の人数でありました。会場での主な意見といたしましては、坂元学区では、「小学校は山下と坂元の2学校区がよい」や「学校は防災や地域交流の拠点」、「子ど

もたちのことを考えると1学校区はしかたがない」、「学校がなくなる地域へのフォローは必要」などの意見がありました。

それから、山下学区では、「再編の機会に教育内容の充実」「小学校は10年後とあるが、この深刻な状態を10年間続けるのではなく改善の方向性を示すべき」などの意見を頂いております。

次の資料は、説明会当日に参加した方々を対象に、小・中学校の再編案に対する賛否や意見などを頂くために、アンケート調査を行った結果となります。

下段の表につきましては、8月の説明会での調査結果となっております。

なお、参加者数が少ないので、あくまでも参考の数字として捉えていただきたいと思います。

小学校の再編については、8月に比べ、全体で51%から62%と賛成の割合が伸びておりますが、特に坂元地区では8月は、賛成と反対が同数でございましたが、今回は15人、62%が賛成と変わってきております。

中学校の再編では、8月の67%から72%と全体では賛成の割合が増えておりますが、山下学区を見ますと賛成が70%台から60%台と若干低下したところもございました。

次にアンケートでの主な意見となります。小学校での賛成意見としては、「児童数を考え1学校区」や「競い合える環境」、「複式学級は避けるべき」、「男女比のアンバランス解消」などの意見がございました。反対意見としては、「学区を見直し2学校区での検討」や「検討不足」、「検討の時期ではない」、「地域コミュニティを考えてほしい」などの意見がございました。

中学校での賛成意見は、「早急に再編を」や「切磋琢磨できる環境」、「学力や部活動を考え必要」、反対意見では、「部活動ありきの再編としか受け取れない」や「受験生だけでも現在の学校で対応できないか」などの意見がありました。

また、その他の自由意見と致しましては、「閉校後の校舎の利活用」や「小・中一貫校の検討」、「1～2年を掛けての地区での意見交換会の開催」、「小学校も早い段階での再編を」、「説明会の参加者が少ない理由の分析」などの意見も頂いております。

次の資料は「パブリックコメントの結果」でございます。

パブリックコメントでの意見は郵送で1件ありました。

差出人は年配の方で「子どもたちが少なくなり再編は致し方ないと思っているが、教える側に気持ちの余裕がなければ生徒達は変らない、地域の大人、教師、家庭の三位一体での改革に取り組んでもらいたい」との意見でございました。

最後に参考資料と致しまして、議会定例会での学校再編に係る一般質問の内容をご紹介します。

学校再編の方向性について説明会を行いました8月以降の9月定例会、12月定例会での内容となります。

9月の定例会では、3人の議員から質問があり、「定住、婚活事業を活かした学校再編等の対応」、「小中学校統合後の各地区への影響」、「学校再編の取り組みの現状と

今後の進め方等の対応」についての質問でございました。

それから、先日行われました12月の定例会でも、3人の議員から質問があり、「町長の学校再編に対する考え」、「学校再編を進める上での坂元地区の将来計画や廃校後のまちづくりについて町部局が協議する時期」、「再編方針を決定した経緯と今後の具体的な取り組み」など、町長や教育長に対しての質問でございました。

なお、回答内容につきましては、記載のとおりとなっておりますので、時間の関係上、省略させていただきます。

以上が住民説明会、パブリックコメント、議会等での学校再編に関する意見や質疑となりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。説明は以上となります。

【議長】（齋藤町長）

はい、ありがとうございました。

事務局から説明がありましたが、補足しますと、説明会への参加者について、残念ながら多くはないですが、この中には、発言の様子を傍聴に来た議員の数も含まれますか。（事務局 はい）という状況です。

ご意見を頂戴したいと思います。

【教育委員】（大内委員）

小学校について10年後というのが、賛成もあるが、待ってられないのではという意見もあります。

前提として、私は、検討委員会の方向性を尊重するつもりですが、その辺で不安があるようですね。

【議長】（齋藤町長）

今の意見は10年後という基本方針について、委員としては賛成ということですね。

【教育委員】（大内委員）

委員としては、検討委員会の意見を尊重します。坂元地区についての懸念が出てくるのは解かりますが、山下学区での意見の中で10年というのは長いということを行っているのか、短いということを行っているのか確認したいです。

【事務局】（佐藤課長）

山下地区での意見交換の中で、参加された方から、小学校について人数が減り、山一小で複式学級の編制が見込まれる現状や、男女比のアンバランスなど問題がある中で、ただ10年間、このままにしておくのではなく、なんらかの取り組みを実施、改善しなければならないのではないかという意見でした。

【教育委員】 大内委員

10年では早いのではないかとの意見もあったようですが。

【事務局】 (佐藤課長)

これは、反対意見として、10年で判断する、10年後に再編するのは早いのではないかとの意見でございました。

【教育長】 (菊池教育長)

坂元地区では、説明会の会場で逆の意見をいただいております。10年間で小学校の再編を考えているようだが、近々で複式学級が編制される学校はないのかということで、山一小がここ1～2年で複式になるような想定があること、その他の学校は新入学生が1桁はありますが、すぐに複式になるような想定はないという話をしたところ、であれば小学校は10年を待たずに早めたらよいのではないかという意見を頂き、それに対して、10年をどのように見込んだかとの説明をしました。教育委員会としては小学校と中学校を一緒に再編の業務を進めるには非常に苦しいところがあるので、中学校に2年を掛けて再編を進め、終わった段階から小学校の再編を進めていき、小学校はどこの校地・校舎を使うのか検討と、もし、既存の校舎を使うのであれば、改築、増築の必要があるかどうかなど、場合によっては、新しい校舎をつくるとなった場合の場所の選定などが必要になりますので、3年から4年の期間が必要であり、後は、中学校と同じように再編に向けての準備をしていかなければならないので、1つの区切りとして10年を見込んでおいてもらわなければいけないのではないかと、お話をしたところですが。早めてほしいという方もいましたし、10年の過ごし方について、なにか対策をとる方もいました。

【議長】 (齋藤町長)

話を聞くと2年後に中学校、その後、場所の問題、学校の施設規模の確認などで2～3年必要になるかもしれない、そこから結論が出て具体の再編協議に入り、またそこから時間が掛かるということですよね。

【教育長】 (菊池教育長)

そのとおりです。校舎の建築や改築に場所を決めた後も時間がかかり、再編業務もあるということで、10年位を見込んでいただいたほうがいいかなということです。

【議長】 (齋藤町長)

中学校で2年、小学校の検討で2～3年、その具現化で2年位、となると一定の時間が掛かってくるという捉えですね。

【教育委員】 (菅野委員)

子どもたちの人数が減ってくるのは確実に見えてますので、減らないように努力するというのは1つありますが、山元町だけの問題ではなく日本全国、仙台でも、2020年以降減ってくるというデータが出ておりました。山元町もデータのとおり減りますので、1学校区というのは、やっていかなければならないと思います。先ほどのお話のように、だからと言ってすぐに1つということにはなかなかできず、どこに学校を持ってくるのか、新しくするかなど、いろいろな問題があります。中学校のような2校だけの問題ではなくて、小学校は数が多いので、それぞれで閉校していかなければならないし、新しい学校を建てるのであれば、その準備、方針を立てていかなければならないとなると、やはり10年はみないといけなかなと思います。

ただ、未来のことなので、人数等の確定的なことは、わかりませんので、1つの目安として10年は妥当なのではないかと思います。

【議長】（齋藤町長）

人口減少問題については、今回検討委員会の皆様には、議論を交わしていただくなかで、町の現状が相当厳しい人口減少、特に子どもの数の減少について理解を深めていただいたなかで一定の方向性を整理していただいたのではないかと思います。

一方でアンケート調査では、町全体としてはまだまだ人口減少対策への町の取り組みへの期待、叱咤激励するような発言もあります。

これは、町のおかれた人口構造をしっかりと共有しないと、学校再編問題だけでなく町づくり全体に関わる大きな問題になるのかなと思っています。

今後の町づくり全体の中で、改めて、人口問題、いわゆる高齢化、出生率の低下、若い世代の数、未婚・晩婚等々の問題がまだまだ浸透していないと思いますが、大きな課題と認識しているので、取り組んでいかないとと思うわけです。

【教育委員】（荻原委員）

説明会に両方とも参加させていただきました。まず、参加人数が少なかったのが、一番気になったところです。いろいろな賛成反対意見が出たところですが、暗いイメージだけでなく、新しい学校ができる明るいイメージで取り組んでいけたらなと思います。坂元地区の住民は不安も多く、説明会に来た人数で判断は出来ないのですが、やはり、反対する方がいるのは確実なところなので、坂元地区の方々にわかっていただけるような説明があっていいのかなと思いました。

今後、住民説明会はもうないのでしょうか。

【事務局】（佐藤課長）

今回の方針を決める上で説明会をやってきているので、今後、小学校の再編や、中学校の再編については必要に応じて、機会を捉えながら住民や保護者への説明を計画していく必要はあるのではないかと考えております。

【議長】（齋藤町長）

説明会への参加者の多い少ないについては、議会でも触れられている問題ですが、残念ながら、毎度、参加者はけっして多くありません。

これは、その他の説明会、例えば住民懇談会でも同じでございます。一定の参加者がいる行政区もありますが、それは非常に稀なケースでして、町全体として、何をやっても参加者が多いわけではありません。「分析を」との意見も頂戴しますが、町としては、出来るだけ早い時期に、案内や広報などでお知らせし、今回については、それなりの回数、頻度を確保して広報等にも努めて参りました。事務局としては、参加者の確保が大変な問題になるのではないかと思います。

教育長、参加者の件で思っているところがあればお願いします。

【教育長】（菊池教育長）

参加されない方はどういった方なのかと考えた時に、一つは、積極的に示された方針案でよいのではないかと賛成する方、賛成だが、やむを得ずの消極的な賛成の方、また、反対だが、行って話しても変わらないのではないかと諦めている方、あるいはあまり関心を持たない方、などが考えられます。割合としてどうなのかというところまでは、捉えようがないかなと思っています。

しかし、議会での議員さんの質問の中に一定程度、理解が進んだのではないかとという発言をされた方もおり、それは、少し考えられるかなと思っています。

検討委員会の方向性の説明をして、今回の方針案については、チラシを作成して全戸配布しましたので、その点で、町がどのような考えかというところは、ある程度、ご理解はいただいたのではないかと思います。

【教育委員】（菅野委員）

今回の再編に関しましては、検討委員会を開いて、かなりの回数、検討していただきました。その中でアンケートをとっていただきました。住民、保護者、子ども、教員へのヒアリングと丁寧に対応して頂いたと思います。

8月の住民説明会、今回の住民説明会、パブリックコメントなど、丁寧に地域住民の方々にご理解いただけるようにしたいと思いますので、参加人数は少なかったですが、方針をご理解いただいて参加が少なかったという方も多々いるのではないかと思います。

【議長】（齋藤町長）

今回、事務局から説明した人数的なものは寂しい状況ではありましたが、菅野委員が話したとおり、トータルでみると、一定の対応はしてきたと思います。

町民参画というところで、参考までに総合計画のアンケートの回収率は大内課長どのくらいでしょうか。

【関係者】（大内課長）

約4,700世帯にアンケートを送りまして、約1,700の回収で30%台の回収率です。

【議長】（齋藤町長）

そのことから言えば回収率は高いものではないということです。

【教育長】（菊池教育長）

学校再編のアンケート調査の回収率はどうでしょうか。

【事務局】（佐藤課長）

地域住民の調査では、約42%、小・中保護者は約86%、幼稚園・保育所も約86%でした。一般的なアンケート調査でいうと、30%台であれば回収率は高い方ではないかということも聞いたことがあります。

【議長】（齋藤町長）

時間の関係もありますので、次に、(2)小・中学校再編方針（案）について事務局から説明願います。

【事務局】（佐藤課長）

はい、それでは、方針案について説明いたします。

方針案につきましては、先の10月に開催しました第2回総合教育会議の中で意見交換を行い、その後に教育委員会定例会において、検討委員会での検討結果を尊重し、平成25年の学校環境整備方針で示されていた、基本方針3の一部を見直しするかたちで、小学校については、10年後を目途に小学校を1学校区、中学校については、方針を踏襲するかたちでの2021年4月に中学校1学校区とし、校舎については、現山下中学校を活用するとした再編方針案としております。その後、先ほども説明いたしました但、広く町民の方々に再編方針案をお示ししながら、再度説明会を開催し、住民の方々から御意見を頂いたところでありますので、その御意見を踏まえまして、町内小中学校の今後の学校再編につきまして意見をお伺いしたいと思ひます。

【議長】（齋藤町長）

皆様のご意見をお願いします。

【教育委員】（大内委員）

中学校の再編に関する反対意見はどのようなものが出ていますか。

【事務局】（佐藤課長）

今回の説明会では、中学校に対しての大きな反対意見はありませんでしたが、一部の方々から、部活動ありきの再編ではないかという意見は頂いております。

【教育委員】（大内委員）

部活動もありますが、それ以外の要素も大きいですね。

ということは、中学校の再編については、この方針でいいと判断して良いのではないかと思います。

我々も検討委員会の報告を受けながら、教育委員会でも何度も話し合いを設けているので、中学校については、予定通りで進めて頂いて良いと思います。

【教育委員】（荻原委員）

坂元地区の皆様から反対意見は聞きますが、私も最初は小学校2学校区に賛成でしたが、何度も話し合いを進める中で1学校区にした方が、10年先、その先も見越して子どもたちのためになるのではないかと思いますので、賛成です。

【議長】（齋藤町長）

小学校も中学校もですね。

【教育委員】（荻原委員）

はい。

【教育委員】（菅野委員）

中学校について、ここまで検討した結果、ある程度の人数がいてその中で生徒会活動や学習や部活動も全ての学校の教育活動は切磋琢磨して互いに高め合い、協力し合っていて、学び合う、そういうことが出来る環境をつくってやらないといけないと思います。山元町は1つということで、1つになってよりよい子どもたちの教育をしていければいいかなと思います。

小学校についても、1学級より、2学級のほうが、同じようによりよい学びが出来ると思いますので、先ほども話したとおり10年を目処に1学校区に再編してはと思います。

【教育長】（菊池教育長）

検討委員会でも、協議を重ねるうちに意見が変わってきまして、小学校も中学校も1つにした方が子どもたちのためになるのではということで、まとまったところです。

次の問題として単に子どもの数で1つということでなく、次の段階として教育の自身を考えて、現在の課題を解決するような学校教育を併せて進めていければと思っています。

【議長】（齋藤町長）

皆さんの意見を聞くと、案については、一定程度の期間、議論を重ねた結果で、異論はないと、そして、単に学校再編だけでなく、課題である学力向上対策などに力をいれていくというところで確認できました。この資料にある方針案については、このとおりということによろしいでしょうか。

【教育委員】（大内委員）

今後のフォローとして、スクールバスの問題や教育の内容をどうしていくかというところも並行して出していかないと、ただの再編ありきかとなりますので、その辺も考慮していかないといけないと思います。

【議長】（齋藤町長）

子どもたちの通学方法については、検討を重ねるうえでも、意見を聴取するうえでも、出てきた問題であり、これは、再編するうえでの問題でありますので、今後検討していく中で、考慮しなければならないと思っております。

【議長】（齋藤町長）

次に、学校再編に係る今後のスケジュール等について事務局から説明願います。

【事務局】（佐藤課長）

はい、それでは、資料3をご覧くださいと思います。初めにこのスケジュール案につきましては、再編方針決定後に町民や学校、保護者への周知方法の流れと考えた表になります。

今後、定例会において方針決定後、1月に行われます常任委員会や議会全員協議会での議員に対する説明、その後、各小・中学校への周知等を予定しております。

なお、現在の小学校6年生が中学校3年生に進級する際に、中学校が再編となりますので、来月15日と22日にそれぞれ中学校で入学説明会が予定されておりますので、この機会を利用しまして、保護者の方々に中学校再編について説明を行いたいと考えております。

また、町民に対しては、広報やまもと2月号に掲載し、ホームページ等でも周知を図っていければと考えております。

2枚目、次の資料が中学校の再編に係るスケジュール案となっております。

中学校については、2年後の2021年4月に新中学校として開校という運びになりますので、平成31年度、32年度の2年間で開校、閉校に向けた準備を行うということになります。初めに閉校に関する業務としては、両中学校の歴史など学校沿革の取りまとめ、教材や備品の整理、閉校に向けた式典の準備など両中学校の同窓会の方々にもご協力を頂きながら、進めていきたいと考えております。

開校に向けた業務につきましては、新たな中学校の校章や校歌、制服などの検討や

教育目標の制定など多々ありますので、再編準備委員会などの組織体制を整備しながら、学務課や学校、保護者なども含め準備を進めていきたいと考えております。

次の資料については、今回の再編と併せまして学校教育の充実にも力を入れていきたいと考えており、案としては、プロジェクトチームなどを組織しましてその下に下部などの部会も設置し、「知」「徳」「体」それぞれの課題に対して、町全体として継続的に取り組んでいくという考えでおります。

次の資料につきましては、学校教育上の具体的な現状や課題に対する取り組み案の資料となります。

初めの1枚目には「知」に関する課題として、全国の学力学習状況調査では、小・中学校ともに、県、全国平均を下回る結果となっておりますので、今後の取り組みとしては、大河原町や石川県の中能登町など先進的に取り組んでいる成功事例などもございますので、このようなところを参考にしながら学力向上に向け取り組むという考えでおります。

次に2枚目の中段になりますが、「徳」に関する課題として、震災などに起因する心のケア、それから、不登校の児童生徒が本町でも増加傾向にあることから、現在もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどを配置はしておりますが、今後は、県の補助金などを活用しながら、心のケアハウス事業を実施していきたいと考えております。

最後のページになりますが、「体」に関する課題といたしまして、全国体力運動能力調査の結果、本町の児童生徒については、肥満傾向で体力的にも県や全国を下回る項目もあり、今後、部会を設置する中で、具体の検討を行いながら改善を図っていききたいと考えております。

その他にも、学校の環境整備や教職員の働き方改革の対応など並行して取り組んでいきたいと考えております。

説明は以上となりますが、学校再編と併せ学校教育の充実を図りながら、よりよい子どもたちの学びの環境の整備に努めて参りたいと考えております。以上です。

【議長】（齋藤町長）

はい、事務局から再編を決定した場合のスケジュールや学校再編に併せての学校教育の充実に関する取り組みの説明がございました。委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

【教育委員】（大内委員）

小6の保護者説明について、小6だけでよいのでしょうか。小4から必要ではないのでしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

考えているのは、方針が固まった後の動きとして、まず、教職員への説明を学校の

職員会議に出向いて行く必要があると、後は、保護者、児童生徒ですが、保護者に関しては、中学校の入学説明会の日に直接出向いて、小学校6年生の保護者を対象に説明をしたいと考えております。来年、中学校に入るわけですが、2年後、中学3年生になった時に1つになるということで、心配されていること、進め方などを小学校6年生の保護者に直接出向いて説明する必要があるなど思っております。

そのほかの保護者に関しては、小学校6年生の保護者に説明する時に資料を準備いたしますので、それを学校に配布して、小学校から6年生以外の保護者に説明してもらおうと考えております。

というのは、3学期の学級懇談の日程などが、6年生の分と他の学年の分が違っており、同じ日に1年生から6年生まで一斉に学級懇談会を実施するという事ではないので、6年生は学級懇談会に併せてこちらから出向いて説明会、その他の学年の保護者の方々には、こちらで用意した資料を学校の方から、説明をしてもらおうと思っています。

【教育委員】（大内委員）

再編する時には学年進行ではなく、中学1年生から3年生まで一緒に再編するわけですね。ですから6年生だけの説明会というのは違和感があって、今の小学4年生は再編時に中学1年生で、今の小学5年生は再編時に中学2年生なので、学校側だけで説明するのではなく、時期はずらしても小学6年生と同じように説明する必要があるのではないかと思います。

【教育長】（菊池教育長）

今年度内のできるの、小学6年生までかと考えております。その他、考えられるのは、PTA総会で各小学校の日程を確認して、同じ日程だと思いますので、手分けして説明するか、時間をずらして説明するか考えていきたいと思っております。

小学6年生だけで終わりということではないですが、こちらとしては、まずは、小学6年生の保護者と考え、そこまでは、スケジュールに入れたということです。

PTA総会には、全員は揃わないかもしれませんが、全保護者がお集まりになるので、そのような機会に改めて説明をするよう考えていきます。

【教育委員】（菅野委員）

まず、今回は小学6年生の保護者に説明を行う、それから小学校のPTA総会で説明を行う、また、次の6年生が中学校の入学する時に説明会を行うなどと実施してもよいかと思います。

【議長】（齋藤町長）

説明については、今の意見を踏まえ実施いただければと思います。

その他ありましたらお願いします。学校教育の充実の関係などいかがでしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

補足ですが、学校再編については、人数が減るから1学校区にするということが目的ではなく、子どもによってよい環境にするということ、そのよい環境ということでは、再編を進めながら、いかに学習環境を充実させていくかということです。

今年度9月の議会等でも町の子どもたちの学力向上に関する課題などをご質問頂いたんですが、震災後、各学校では子どもたちにまだまだ心の傷があるだろうということで、震災のことには直接触れないような教育をしてきました。その流れで年数が経ち、やはり、学力に関することや人間関係がなかなかうまくいかないとか、コミュニケーション能力が身についていないのではないかと課題がみえてきています。

最近では今年度の結果が話題になっていますが、体力運動能力に課題が見られる状況で、そのあたりをてこ入れしていかないと、同じ状態が続いてしまうのではないかとという危惧があります。

そのことを考えると、再編とはまた別に、どのように取り組んでいくかということで、学校教育の充実ということを進めていきたいと考えております。

ここに再編が並行して進むのであれば、例えば中学校を2校から1校に再編する時に、どのような中学校にするのかというところで、ただ、2校を1校にするのではなく、県内でもこの部分は誇れる、自信が持てるというような学校づくりを積極的に考えていかなければならないと思います。

そのような点であらゆる課題に対応出来るような事業をある程度の期間をかけて進めていったらよいのではないかと、それを進めるにあたって、事業の中心になるような推進会議を設置して、更にその下の部分で「知」「徳」「体」に関わる具体的な取り組みや課題を見つけたり、どのような取り組みを行うかという検討機関を設けながら、進めていけるといいかなと考えております。

このことについては、外部の方を入れた推進会議が考えられるのですが、今の段階で来年度からそのような組織を設置するというのは難しい部分もあります。

これに準じるものを来年度は校長会を中心に、それからいろいろな先生方の集まりも活用しながら、検討、推進を来年度進めていき、改めて翌年度以降に外部の方も入って頂いて、外から見たときの学校というところからも意見を取り入れるような事業推進が出来ればいいのかと考えたところでした。以上です。

【教育委員】（菅野委員）

いろんな連携をする中で、人の派遣、どのようなことをやっていくかの指導やプログラム作成の支援などあると思うので、大学と連携を結んで、指導助言をいただいたりと外部の力を借りるということもあると思いますので、その辺も検討していただければと思います。

【教育長】（菊池教育長）

再編を明るいイメージでやっていきたいが、一方で学校に負担をかけすぎないように注意しながらやっていきたいと考えております。

【教育長】（大内委員）

その辺はこの推進委員会の中で協議していただければと思います。いいアイデアがでてくるのではないかと思います。

【教育委員】（荻原委員）

教職員の意識を変えないといけないということもありますが、子どもたちの意識も変えないといけないと思います。

【議長】（齋藤町長）

喫緊の課題には取り組んでいかないといけないと思います。町をあげて、今回の検討委員会のメンバーなどプロジェクトで、早めに立ち上げていただければと思います。

教育長が言うように、前段は校長会などでやるとしても外部委員も含めては早いうちに実施してほしいと強く思います。

確認ですが、肥満はどのような状況でしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

昨年度の調査結果では、小5と中2が対象ですが、例えば小学男子は高度肥満が高い、小学女子は軽度肥満が高い、原因は運動不足ではないかと思えます。

学校でできることは、休み時間に運動するなどではないかと思えます。

【議長】（齋藤町長）

学校だけでは、解決は難しいので、町をあげて対応していかねばと思いますので、予算措置について、事務局の人的体制も含め進めているところです。

一定のマンパワーがないと課題解決は難しいと考えております。

他にとくになければ、本日の議題は以上となります。

大変ありがとうございました。

【事務局】（佐藤課長）

はい、ありがとうございました。

以上を持ちまして、平成30年度 第3回山元町総合教育会議を閉会いたします。